授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB　(CF402)			担当教員	井上　英也		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	４年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ねらい	アクティブラーニングの 類 型
専門演習Ⅰ、Ⅱにおいて習得したホスピタリティ・マネジメントの理念、知識を基礎に、研究の集大成としての卒業論文を完成させることを目標とする。	②④ ⑥⑦

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力	研究対象に対する多面的な分析から、自らの発想で新たな解を求めることができる。	論文執筆	50%
情報収集、分析力	研究対象について、参考文献、資料、メディア、専門家などから幅広く情報を集め、整理、分析した上で、独自の結論を導き出すことができる。	調査結果の内容	30%
コミュニケーション力	研究の成果を聞き手に理解させることができる。 また、他者の研究に対し、適切なフィードバックをすることができる。	研究発表	20%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

論文執筆：５０％　題目の設定、多面的な視点からの分析、理論構築の方法、結論の独自性などから総合的に評価。
調査結果：３０％　題目に関する幅広い情報収集力と結論に導くための整理・分析力を評価。
研究発表：２０％　聞き手の興味を喚起し、聞き手と研究成果を共有するプレゼンテーション力を評価。
評価のフィードバックは、授業内外で都度おこなう。

授　業　の　概　要

基本的に本授業においては、卒業論文の完成までのロードマップに従い、各自が授業外で準備してきた成果を発表、議論することで研究内容を深めていく。
この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書　：特になし
参考書　：授業時に、指定する。
指定図書：「リーダーシップの旅」野田智義/金井壽宏(著)

授業外における学修及び学生に期待すること

社会の出来事に興味を持ち、その中から自らが最も興味を持つ研究題目を見出し、深く没頭して課題に取り組む姿勢を期待する。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	演習の概要理解。	予習：年間計画の見直し 復習：年間計画の修正
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	論文の個別指導①	序論を執筆する。	予習：序論の検討 復習：序論の執筆
4	論文の個別指導②	序論の発表をする。	予習：発表準備 復習：序論の完成
5	論文の個別指導③	本論の前半部分を執筆する。	予習：本論前半の検討 復習：本論前半の執筆
6	論文の個別指導④	本論の前半部分を執筆する。	予習：本論前半の執筆 復習：本論前半の完成
7	論文の個別指導⑤	本論の後半部分を執筆する。	予習：本論後半の検討 復習：本論後半の執筆
8	論文の個別指導⑥	結論を執筆する。	予習：結論の検討 復習：草稿の完成
9	論文草稿の完成・提出	草稿を完成し、要旨を発表する。	予習：発表準備 復習：草稿の修正
10	論文の個別指導⑦	草稿の改善点を修正する。	予習：草稿の修正 復習：草稿の修正
11	論文の個別指導⑧	草稿の改善点を修正する。	予習：草稿の修正 復習：草稿の修正
12	論文・要旨の完成・提出	卒業論文の体裁を整え、全体を最終確認して提出する。	予習：論文の完成 復習：発表準備
13	卒業研究発表①	卒業研究発表会①	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表②	卒業研究発表会②	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復習：ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB(CF402)			担当教員	落合　知子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
3年次の「専門演習ⅡA・ⅡB」及び4年次の「専門演習ⅢA」で進めてきた卒業研究の完成を目指す。	①⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	博物館学知識を深め、論文を完成させることができる。調査研究の取り組み方法を身に付けることができる。	学術論文の執筆	50%
情報収集、分析力	文献を収集し、内容を理解し、分析することができる。博物館学の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。	研究テーマに関する調査と文献渉猟	30%
コミュニケーション力	卒業研究のテーマにおける課題に取り組み、調査結果を発表することができる。学外のフィールド調査で協調性を養うことができる。	プレゼンテーション・勉強会での発表	20%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　　席	受験要件

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

卒業研究の執筆能力 50%、図表・写真などの情報収集・分析力、博物館学の思考力 30%、卒業研究の発表におけるプレゼンテーション力やフィールドワークでのコミュニケーション力 20%で評価する。ポートフォリオで課題のフィードバックを行う。

授　業　の　概　要

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

前期に進めてきた卒業研究を完成させる。現地調査や聞き取り調査などのフィールドワークを継続し、文献渉猟も見直す。図・表・写真なども取り入れ、論文の体裁を整える。卒業研究発表会で発表を行う。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：『野外博物館の研究』（雄山閣）

参考書：『観光資源としての博物館』『博物館と観光』（雄山閣）

指定図書：『野外博物館の研究』

授業外における学修及び学生に期待すること

博物館学はあらゆる学問分野からの視座で論文に取り組むことができる。未踏の分野を研究することで、独自の学問領域を見出すことが肝要である。日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の活動を学ぶことが望ましい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	卒業研究の執筆に関する指導。	予習：論文執筆 復習：論文の見直し
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	卒業研究の個別指導①	論文執筆。	予習：論文執筆 復習：見直し
4	卒業研究の個別指導②	論文執筆。	予習：論文執筆 復習：見直し
5	卒業研究の個別指導③	論文執筆。	予習：論文執筆 復習：見直し
6	卒業研究の個別指導④	論文執筆。	予習：論文執筆 復習：見直し
7	卒業研究の個別指導⑤	論文執筆。	予習：論文執筆 復習：見直し
8	卒業研究の個別指導⑥	論文執筆。	予習：論文執筆 復習：見直し
9	卒業研究の個別指導⑦	論文執筆。	予習：論文執筆 復習：見直し
10	卒業研究の個別指導⑧	論文執筆。	予習：論文執筆 復習：見直し
11	卒業研究の個別指導⑨	論文執筆。	予習：論文執筆 復習：見直し
12	卒業研究の個別指導⑩	図・表・写真を挿入して体裁を整える。	予習：図・表の作成 復習：見直し
13	卒業研究発表(1)	卒業研究発表会(1)。	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表(2)	卒業研究発表会(2)。	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う。	予習：ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復習：ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CA 111)			担当教員	滝　知則		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
3年次までの学習を基に設定したテーマについて研究を行い、卒業論文を完成させる。観光学、日本の国際関係史、ならびに観光対象等についての理解を、読み手に分かりやすく整理し、説明できるようになる。プレゼンテーションのスキルを身に付ける。協働と異文化尊重を実践する。	④⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	研究対象に関わる歴史とその現状を理解し、説明できる。	期末レポート	40%
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、研究対象に関する情報を収集する。	期末レポート	30%
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。 ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。	ゼミ内発表会 演習参加状況	10% 10%
協働・課題解決力	卒業研究の過程で生じた自他の課題の解決に、協働して取り組むことができる。	演習への参加状況	5%
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。	演習への参加状況	5%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

演習への参加状況、ゼミ内での発表、ならびに期末レポートの3つの角度から評価する。

授業の概要

フィードバックは次の時点で行う。ゼミ内発表会：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、90分です。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。各回の演習に先立ち、必要な資料を配付、または各自での収集を指示する。

参考書：小笠原喜康．2002．大学生のためのレポート・論文術．講談社現代新書.

指定図書：白石隆．2000．海の帝国．中公新書.

授業外における学修及び学生に期待すること

1．無断欠席をしないこと。分からないことや困ったことが出てきたら、すぐに担当教員に相談すること。
2．体力をつけること。分かりやすい文章を書くためには体力が必要。
3．データのバックアップを2つ以上の媒体に定期的に取ること。プリンターのインクの予備を用意しておくこと。
4．初志貫徹。「書き続けるのがつらい」と感じたら、ゴールに近づいてきた証拠。あと一息。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	（予習）毎回のレポートを書くうちに出てきた疑問点をまとめ、質問できるようにしておくこと。以下同じ。
2	省察	３年前期の学修成果を省察し、今期の個人目標設定のための面談を実施する。	（予習）参考文献と序論の準備
3	原稿の推敲と指導１	参考文献、序論	（復習）指導を受けた部分の原稿を次回提出
4	原稿の推敲と指導２	本論（１）	（復習）指導を受けた部分の原稿を次回提出
5	原稿の推敲と指導３	本論（２）	（復習）指導を受けた部分の原稿を次回提出
6	原稿の推敲と指導４	本論（３） ・２・３年生が行う、大学祭学術発表に出席する。	（復習）指導を受けた部分の原稿を次回提出
7	原稿の推敲と指導５	本論（４）	（復習）指導を受けた部分の原稿を次回提出
8	原稿の推敲と指導６	結論（５）	（復習）指導を受けた部分の原稿を次回提出
9	原稿の推敲と指導７	序論（もう一度）	（復習）指導を受けた部分の原稿を次回提出
10	原稿の推敲と指導８	原稿全体を見直す（１）	（復習）原稿の最終確認
11	原稿の推敲と指導９	原稿全体を見直す（２）	（復習）原稿の最終確認
12	卒業論文提出	①論文を提出する ②卒論要旨の書き方の説明	（復習）卒論要旨を作成する。
13	卒論要旨の推敲	卒論要旨原稿を修正する。	（復習）指示に従って要旨を書きなおす。
14	卒論要旨の提出	①卒論要旨を最終確認のうえ、提出する。 ②ゼミ内発表会について指示	（復習）ゼミ内発表会の準備
15	卒論合同発表会	①自分の卒論の要点を報告する。 ②他のゼミ生の発表を聴いたり、質疑応答を行ったりを通じ、自他の研究のすばらしさを確認する。	

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	田中　誠		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
・社会性の高い内容に関して、英語で表現することができるようになり、多文化共生社会において交流することができる。 ・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。 ・TOEIC の問題を辞書を使用すれば、概ね解くことができ、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。	①⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	TOEIC 480 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。	・テスト	40%
情報収集、分析力	社会性の高い問題の情報収集、及び解決のための思考･判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。	・受講者の発表	35%
コミュニケーション力	(1)社会性の高い内容のコミュニケーションのために必要な知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。 (2)コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。	(1) 受講者の発表 (2) 課題	5% 20%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

1．毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。
2．12 回目に 30 分のテストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後は個別にフィードバックを行う。
3．担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。

授業の概要

英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC に関して深く学ぶ。　（コースの指定は特にしない。）

この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教科書・参考書

教科書：『脱文法 100 トピック実践英語トレーニング』中山誠一(他)、ひつじ書房。及び、プリント配布。
参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ 』 TEX 加藤（著)、朝日新聞出版。
『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』 TEX 加藤（著)、朝日新聞出版。

指定図書：『大学生のためのレポート・論文術』 小笠原善康（著)、講談社現代新書。

授業外における学修及び学生に期待すること

コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力がＮ1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命に自ら学ぶ必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	休暇中の取り組みについて英語で発表。また、ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う	予習：TOEIC の最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期の目標設定・面談	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。面談の実施	予習:前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習:本学期の目標設定の清書
3	論文	実際の論文を読みディスカッション、TOEIC 問題	予習：TOEIC 1-10 について調べる、課題論文を読む 復習：英文 1-10 音読筆写
4	永平寺	TOEIC 問題、永平寺に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 11-20 について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	鯛	TOEIC 問題、鯛に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 21-30 について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	卒業研究について	中間発表報告会、ディスカッション	予習：中間報告会準備、 復習：中間発表の振り返り、音読筆写
7	銭湯	TOEIC 問題、銭湯に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 31-40 について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
8	柔道	TOEIC 問題、柔道に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 41-50 について調べる 復習：英文 41-50 音読筆写
9	仏壇	TOEIC 問題、仏壇に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 51-60 について調べる 復習：英文 51-60 音読筆写
10	和紙	TOEIC 問題、和紙に関する表現、ディスカッション、卒業研究指導	予習 TOEIC 61-70 について調べる 復習：英文 61-70 音読筆写
11	かるた	TOEIC 問題、かるたに関する表現、ディスカッション、卒業研究指導	予習：TOEIC 71-80 について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
12	小テスト、歌舞伎	TOEIC 問題小テスト、歌舞伎に関する表現、ディスカッション	予習:小テストの準備、発表準備 復習：振り返り、音読筆写
13	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会（1）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会（2）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察（卒業ポートフォリオ）、ホスピタリティ・ルーブリック、まとめ	予習:ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復習:ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB（CF402）			担当教員	中山　忠彦		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅡA・ⅡBで設定した研究課題について取り組み、卒業論文を完成させることを最終目標とする。卒業論文作成においては、収集したデータを分析し、結果がどのような意味をなすのか自分自身の解釈と先行研究から得た科学的知見を考え合わせ、研究で明らかにしたい内容を論理的に組み立て簡潔に表現できる能力を身につける。	①④⑤⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・卒業論文として、作成規定に則り研究内容を構造的かつ論理的思考を持って説明できる。	・研究レポート	50%
情報収集、分析力	・卒業論文に関わる文献・データを適切に収集し解析できる。	・研究レポート	10%
コミュニケーション力	・卒業論文の内容を、プレゼンテーションツールを用いて第三者にも分かりやすく伝えることができる。 ・他の学生と卒業論文の内容について、ディスカッションし意見を柔軟に取り入れることができる。	・プレゼンテーションとディスカッション	20%
協働・課題解決力			
多様性理解力	・自分自身の特長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、周囲に不快感を与えない配慮ができる。	・授業態度	20%
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・卒業論文に関する研究レポート（評価比率：60%）卒業論文の研究内容が構造的かつ論理的に記載されているかを評価。研究レポート作成については、授業毎に教員からの指導を行い、研究レポートの内容についてフィードバックする。
・プレゼンテーションとディスカッション（評価比率：20%）卒業論文の発表内容を評価
・受講態度（評価比率：20%）：受講ルールの遵守と積極的な受講態度を評価

授業の概要

本授業では、メディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにする。
卒業論文作成のため、自ら設定した研究テーマについて取り組みます。作成した研究計画書に従い研究活動を進めます。研究の軌道修正が必要となった場合や進捗状況によっては、担当教員に相談した上で、授業外で個別に研究活動を実施することがあります。なお、データを取得する際に研究活動に係る実費負担が生じる場合があります。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。

教科書・参考書

教科書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1162-3

参考書：「健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門」 佐藤 進 他（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1108-1
指定図書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1162-3

授業外における学修及び学生に期待すること

授業外における学習：データ収集活動など授業以外での活動が卒業論文作成に必要な活動となるため、研究活動のための時間を確保し、積極的に主体的に取り組んでほしい。
学生に期待すること：スポーツの魅力を伝えることができる人になってほしい。そのためには、本演習の卒業論文作成に誠実な態度で取り組み、責任ある社会人として論理的思考のできる魅力ある人間性を身につけることを望んでいます。また、ゼミ生にはキッズ・ジュニアスポーツ指導ボランティアなど学外実習の積極的な参加を望みます。

回	テーマ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	・夏季休暇中の活動報告 ・研究活動の進捗状況報告 ・前学期の省察を行い、目標を設定	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標を確認
2	プレゼンテーション①研究レポート	・プレゼンテーションとディスカッション① ・アカデミックライティング ・研究レポートの加筆・内容修正	予習：発表資料を事前に作成する 復習：ディスカッションで得られた指摘や助言から内容を修正する
3	研究データの扱い	・メディアリテラシー（エクセル統計） ・アカデミックライティング ・研究倫理（研究公正とデータの扱い）	予習：研究倫理について調べる 復習：研究データの吟味
4	研究結果の検討①	・メディアリテラシー（図表作成） ・アカデミックライティング ・研究データの整理	予習：教科書を熟読し、図表作成のルールおよび手順を調べる 復習：明瞭な図表を完成させる
5	研究結果の検討②	・メディアリテラシー（文書作成） ・アカデミックライティング ・研究結果の記述	予習：教科書を熟読し、論文結果の記述方法を理解しておく 復習：記述した結果の内容を推敲する
6	プレゼンテーション②得られた結果の解釈	・プレゼンテーションとディスカッション② ・アカデミックライティング ・研究レポートの加筆・内容修正	予習：発表資料を事前に作成する 復習：ディスカッションで得られた指摘や助言から内容を修正する
7	考察の執筆①	・メディアリテラシー（文書作成） ・考察の執筆方法の説明 ・考察の執筆	予習：教科書を熟読し、考察の記述方法を理解しておく 復習：考察の作成
8	考察の執筆②	・メディアリテラシー（文書作成） ・考察の執筆	予習：教科書を熟読し、考察の記述方法を理解しておく 復習：記述した考察の内容を推敲する
9	プレゼンテーション③	・プレゼンテーションとディスカッション③ ・卒業論文の加筆・内容修正	予習：発表資料を事前に作成する 復習：ディスカッションで得られた指摘や助言から内容を修正する
10	卒業論文の作成	・論文としての体裁を整える ・卒業論文の加筆・内容修正	予習：発表資料を事前に作成する 復習：ディスカッションで得られた指摘や助言から内容を修正する
11	卒業論文の編集	・論文要約と「まとめ」の作成 ・アブストラクト	予習：教科書を熟読し、論文要約の記述方法を理解しておく 復習：記述した要約の内容を推敲する
12	卒業論文の提出 発表準備	・アカデミックライティング ・卒業論文の本文と要旨を提出 ・発表準備	予習：卒業論文の体裁を整え、内容を推敲する 復習：発表に向けて準備する
13	卒業研究発表会①	・卒業研究発表① ・プレゼンテーションとディスカッション	予習：発表資料を事前に作成する 復習：発表会について振り返りをする
14	卒業研究発表会②	・卒業研究発表② ・プレゼンテーションとディスカッション	予習：発表資料を事前に作成する 復習：発表会について振り返りをする
15	大学生活の総括	・入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予習：ホスピタリティルーブリック（自己）記入 復習：ホスピタリティルーブリック（最終）記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢＢ　(CF402)			担当教員	落合　和昭		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	４年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ねらい	アクティブラーニングの 類 型
専門演習Ⅰ、Ⅱにおいて習得したホスピタリティ・マネジメントの理念、知識を基礎に、研究の集大成としての卒業論文を完成させることを目標とする	②④ ⑥⑦

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力	研究対象に対する多面的な分析から、自らの発想で新たな解を求めることができる。	論文執筆	50%
情報収集、分析力	研究対象について、参考文献、資料、メディア、専門家などから幅広く情報を集め、整理分析した上で、独自の結論を導き出すことができる。	調査結果の内容	30%
コミュニケーション力	研究の成果を聞き手に理解させることができる。また、他社の研究に対して、適切なフィードバックを行うことができる。	研究発表	20%
協働・課題解決力			
多様性理解力			
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

論文執筆：５０％　題目の設定、多面的な視点からの分析、理論構築の方法、結論の独自性などから総合的に判断
調査研究：３０％　題目に関する幅広い情報収集力と結論に導くための整理、分析力を評価
研究発表：２０％　聞き手の興味を喚起し、聞き手と研究成果を共有するプレゼンテーション力を評価
評価のフィードバックは、授業内外で都度行う。

授　業　の　概　要

基本的に本授業においては、卒業論文の完成までのロードマップに従い、各自が授業外で準備してきた成果を発表、議論することで研究内容を深めていく。
この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。　　指定図書：授業時に、指定する。

授業外における学修及び学生に期待すること

社会の出来事に興味を持ち、その中から自らが最も興味を持つ研究題目を見出し、深く没頭して課題に取り組む姿勢を期待する

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	演習の概要理解	（予習）シラバスを読んでおく
2	個人目標の設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	（予習）個人目標を考えておく
3	論文の個別指導①	序論を執筆する。	（復習）執筆を完成させる。
4	論文の個別指導②	序論を発表する。	（復習）執筆を完成させる。
5	論文の個別指導③	本論の前半部分を執筆する。	（復習）執筆を完成させる。
6	論文の個別指導④	本論の中間部分を執筆する。	（復習）執筆を完成させる。
7	論文の個別指導⑤	本論の後半部分を執筆する。	（復習）執筆を完成させる。
8	論文の個別指導⑥	結論を執筆する。	（復習）執筆を完成させる。
9	論文草稿の完成・提出	草稿を完成し、論旨を発表する。	（復習）草稿を完成させる。
10	論文の個別指導⑦	草稿の改善点を修正する。	（復習）草稿を改善する。
11	論文の個別指導⑧	草稿の改善点を修正する。	（復習）草稿を改善する。
12	論文・要旨の完成・提出	体裁を整え、最終確認の上で提出する。	（予習）最終確認を行う。
13	卒業研究発表①	卒業研究発表を行う。	（復習）振り返りを行う。
14	卒業研究発表②	卒業研究発表を行う。	（復習）振り返りを行う。
15	大学生活の省察	これまでの大学生活を省察する。	（復習）ルーブリックの最終入力

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB(CF402)			担当教員	乙須　翼		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
本演習では、卒業研究の作成を通して、各自が設定したテーマに関わる専門知識を習得すると共に、関連する情報や資料、文献を自ら収集し、分析していくことで、受講者の情報を収集する力、情報を批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら社会人として身につけておくべき基礎力の養成を図る。	⑥⑩⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	テーマに関わる基礎的事項を十分理解し、他者にわかりやすく説明することができる。 テーマに関わる専門的知識を習得し、そのテーマについて今何が問題となっているかを説明することができる。	卒業論文 発表と討議	30% 10%
情報収集、分析力	テーマに関する情報・資料・文献の収集方法について理解し、適切な方法を用いて必要な情報を調査することができる。 集めた情報・資料・文献などを的確に読み取り、客観的な考察を加えることができる。	卒業論文 発表と討議	20% 10%
コミュニケーション力	卒業研究としてふさわしい体裁・構成を理解し、論理的な文章によって論文を書くことができる。 特定のテーマに関して他の受講者と討議することができる（傾聴・質問・回答）。	卒業論文 発表と討議	10% 10%
協働・課題解決力	自身が設定したテーマの社会的意義を認識し、社会的課題を解決するための具体的な方策を考えることができる。	卒業論文	10%
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

評価については、卒業論文を 70%、発表と討議を 30%の比率で評価する。卒業論文については、授業内、また授業外に随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と討議については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な討議を促しているかなどの観点から評価する。なお、演習の無断欠席（特に課題発表の担当となっている日の欠席）は大幅に減点する。

授業の概要

授業は卒業研究の作成を目標として、各自が自分のテーマに基づき論文を完成させていくと共に、受講者全員でお互いの論文を検討していく。なお、この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。

教科書・参考書

教科書・参考書：特に指定しない。テーマに関する文献は適宜授業内で紹介する。
指定図書：白井利明・高橋一郎『よくわかる 卒論の書き方（第 2 版）』ミネルヴァ書房（2013）

授業外における学修及び学生に期待すること

卒業研究は、大学での 4 年間の学びを集大成する「作品」である。「作品」を生み出す過程は苦しいが、完成まで各自積極的に資料収集・調査・発表・執筆に取組んでもらいたい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	論文の進捗状況と執筆スケジュールを確認する。	予）卒業論文の進捗状況の確認 復）論文執筆作業の継続
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ･ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予）前学期の省察と本学期の目標設定 復）本学期の目標の確認
3	論文の執筆①	論文の題目と章立てを確定する。	予）論文題目の確定 目次の作成 復）指摘事項の確認
4	論文の執筆②	担当者が論文の一部を発表し受講者全員で検討する。	予）発表準備 復）修正作業
5	論文の執筆③	担当者が論文の一部を発表し受講者全員で検討する。	予）発表準備 復）修正作業
6	論文の執筆④	卒業研究の様式、体裁などを確認し、修正を行なう。	予）様式、体裁等の確認 復）様式、体裁等の修正
7	論文の執筆⑤	担当者が論文の一部を発表し受講者全員で検討する。	予）発表準備 復）修正作業
8	論文の執筆⑥	卒業研究の執筆を行う。執筆作業に関して不明な点があれば、教員に相談する。	予）論文の執筆 復）論文の執筆
9	論文の執筆⑦	卒業研究の草稿を完成させる。	予）草稿の完成 復）草稿の修正
10	論文の執筆⑧	卒業研究の様式、体裁などを確認し、修正を行なう。	予）表現・形式の確認 復）表現・形式の修正
11	論文の執筆⑨	卒業研究の最終確認を行なう。	予）論文の最終確認 復）論文の提出
12	要旨の執筆	卒業研究の内容を振り返り、要旨を作成する。	予）要旨作成 復）要旨作成作業の継続
13	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会（1）	予）卒業研究発表準備 ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復）発表会の振り返り ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入
14	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会（2）	予）卒業研究発表準備 復）発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行い、発表する。	予）発表準備 復）卒業式のスケジュール等の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢＢ　(CF402)			担当教員	尾場　均		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
観光の情報発信の手段としてFM放送と映像作成の実践をおこない、番組放送や映像作品を作成することでメディアリテラシーを学ぶ。佐世保市のコミュニティFMで毎週日曜日に放送される60分の生番組を担当している。学生だけでなく市民に自ら取材して番組を制作、出演して放送活動を実践する。 長崎県佐世保市の市民参加型のまちづくりプロジェクトを企画し、中心市街地の活性化を図るためのイベントの企画運営の実践や、地域の観光情報を情報メディアで発信する。	⑥　⑪

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	学生の視点で新しい活動やテーマを考え、イベントや番組の作成・出演において、自分の意思を正しく伝え、さまざまな企画ができる	課題提示に対するチームによるプレゼンテーション	40%
情報収集、分析力	プレゼンテーション力はもちろん、情報機器の操作やネット関連の技術修得、情報コンテンツの作成や他者への提案ができる	企画・番組内容	30%
コミュニケーション力	学年を超えて意思疎通を図り、チームにおけるコミュニケーション能力を身につけて、常に相手に思いやり、信頼関係を確立する。	授業態度・活動への参加度	20%
協働・課題解決力	地域情報の発信のための文献検索や調査により地域の歴史を知り、さまざまな視点から物事を考察できる。	地域活性化の企画内容	10%
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

活動への積極的な参加態度、グループディスカッションでの内容、ポートフォリオ・Webによる情報交換の活用度、地域連携活動、映像などの制作・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容を評価する。情報コンテンツの理解と開発内容、検定試験への取り組み、SNSによる情報発信、地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う。

授業の概要

インターネット等の新しい技術を使って観光情報について実践で学ぶ。まちづくりや放送に関する演習は中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地にて実施する。本講義では、様々な分野の専門も関与して、受講する学生のアイデアを産業界等で実用化することやベンチャー企業を設立するなど、産学協同により大学等における学びを社会実装することを志向した授業を行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：なし

参考書：なし

指定図書：『20歳の自分に受けさせたい文章講義』　講談社

授業外における学修及び学生に期待すること

この専門演習で専門知識や社会人基礎力を身につけ、地域の活性化に視点をおいて、地域に密着した活性化に役立つ情報、多元的な地域情報を集約し発信する情報発信基地としての役割を重視している。学生が見たまちの魅力を発信するとともに、市民とのコミュニケーションを促進することを期待する。※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。観光マネジメント　スポーツツーリズム　グローバルツーリズム

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	テーマと到達目標	演習のテーマおよび授業における到達目標の決定	予：事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解すること
2	ポートフォリオ・SNS 登録と演習・面談	番組ポートフォリオ・Web の演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：番組準備・番組ポートフォリオ確認すること
3	スタジオ・市街地視察	スタジオなど活動現場の視察およびまちづくりに関する活動	予：視察場所の資料を確認すること
4	イベント開催	地域活性化イベントを開催 （情報コンテンツの開発によるネットイベントなど）	予：イベント資料を確認すること
5	番組・映像作成	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定すること
6	まちづくり プロジェクト開始	イベントの起案と設計 （情報コンテンツの開発を含む）	予：各地域の過去のイベント資料を確認すること
7	まちづくり プロジェクト発表	地域活性化イベントの広報活動開始。	予：SNS 等の確認と過去の資料を再確認すること
8	イベント参加	地域イベント活動への参加	予：イベント資料を確認すること
9	番組・映像作成	コンテンツ作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組ポートフォリオ確認すること
10	まちづくり プロジェクト	情報コンテンツの開発への参加、まちづくりに関する活動	予：イベントに参加をする
11	まちづくり プロジェクト	地域活性化へのイベントを計画、放送への参加 （情報コンテンツの開発）	予：情報コンテンツの完成を目指す
12	まちづくり プロジェクト	地域活性化へのイベントを計画、放送への参加 （情報コンテンツの開発）	予：情報コンテンツの完成を目指す
13	放送用情報コンテンツ作成	情報コンテンツ作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：ポートフォリオ確認すること
14	成果発表	これまでの活動テーマ、卒業研究の内容をまとめ発表をおこなう	予：発表会形式とするためプレゼンの準備をすること
15	まちづくり プロジェクト	成果を活用した地域活性化へのイベントを実行 （情報コンテンツの開発によるネットイベントなど）	予：イベント資料を確認し把握しておくこと

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB　(CF402)			担当教員	佐野　香織		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	４年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
専門演習Ⅰ、Ⅱで学んだことを生かし、専門演習ⅢAで設定したテーマについて、調査、分析、考察を通して、基本的な論文執筆方法を学びながら卒業論文を作成することを目標とする。	①④⑤⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	設定したテーマに応じた調査の方法、調査結果の分析・整理、学術論文の書き方の基礎を学び、論文を完成することができる。	卒業論文	40　%
情報収集、分析力	自ら設定したテーマで、資料、調査結果を基に問題・課題を発見する力、分析、考察する思考力を培うことができる。	調査結果分析・考察の整理	30　%
コミュニケーション力	自分の卒業研究テーマに関して、分かりやすく伝えることができる。他者の発表を聞き、意見を述べることができる。	ディスカッション 発表	20　%
協働・課題解決力	他者のテーマや興味に関心を開き、共に調査、論文執筆プロセスを歩む姿勢を持つことができる。	授業参加・態度 相互評価	10　%
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

卒業論文の執筆プロセスに関わる力を総合的に評価する(論文 40%、調査結果・考察の整理 30%、ディスカッション 20%、参加態度 10%)。成果物である論文の形式面の評価は、構成、表現、引用等の各側面からルーブルックを用いて行う。提出された論文、プレゼンテーション等のフィードバックは授業内で行う。

授業の概要

専門演習ⅢA で設定したテーマに基づいて行った調査を分析・整理し、実際に論文を書き始め、完成させる。演習では、オンラインアプリ、ポートフォリオ等を適宜用いながら、協働でよりよい研究、論文作成をめざす。完成した論文は、ゼミ内外で発表を行う。スケジュールは変更することがある。
この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教科書・参考書

教科書：二通ほか『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会
参考書：適宜指示する
指定図書：細川英雄（2019)『対話をデザインする―伝わるとはどういうことか』ちくま新書

授業外における学修及び学生に期待すること

卒業論文は、これまでの大学における学びをふりかえり、そしてこれからの人生も考えていく人生の設計書になるようなものです。論文執筆プロセスを通して、自分のテーマを設定することからしっかり向き合い、自律的に論文作成を進めていけるよう支援していきます。他者と学び合いながら、新たな考えをつくる姿勢で臨むことを期待しています。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	授業の進め方について説明する。 また、専門演習ⅢA を踏まえ、今後必要なことを考える。	予習：論文の進捗状況確認 復習：後期の課題設定
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に今学期の目標設定をする	予習：前学期の省察と本学期の目標設定下書き 復習：今学期の目標設定の清書
3	個別指導　1	研究背景、目次、章立ての確認	予習：章立ての確認 復習：章立ての修正
4	個別指導　2	本論の執筆	予習：本論を書き始める 復習：本論の修正
5	個別指導　3	本論の執筆	予習：本論を書き始める 復習：本論の修正
6	個別指導　4	本論の執筆	予習：本論の執筆 復習：本論の修正
7	協働中間報告会　1	これまでの執筆中間報告、中間相互評価	予習：中間報告準備 復習：修正計画作成
8	協働中間報告会　2	これまでの執筆中間報告、中間相互評価	予習：中間報告準備 復習：修正計画作成
9	個別指導　5	本論の執筆	予習：本論の執筆 復習：本論の修正
10	個別指導　6	本論の執筆	予習：本論の執筆 復習：本論の修正
11	個別指導　7	結論の執筆、要旨の作成	予習：本論の執筆 復習：本論の修正
12	個別指導　8	卒業発表会の準備	予習：本論の執筆 復習：本論の修正
13	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会	予習：発表準備 復習：発表自己評価
14	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会	予習：発表準備 復習：発表自己評価
15	ふりかえり	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予習：ホスピタリティルーブリック記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
テーマ：「研究テーマを見つけ、オリジナルの調査報告をしよう」 専門演習ⅠやⅡで学んできた理論や先行研究に基づき、各自が研究テーマを見つけ、それを解決させる研究手法を探し出す。そして、その研究を実践し、研究報告書をまとめ、報告する。これら一連の研究を通して、観光・観光産業・まちづくりなどの領域の課題解決を見出せるようになる。 これに付随して業界研究・企業研究の手法を学び、関心のある業界や企業について調べ、報告し、情報を共有する。	⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	専門書や先行研究を読み、理解して、これらの成果を、各自の研究課題を解決するための分析手法として利用（もしくは応用）することができる。	発表	50%
情報収集、分析力	研究課題に取り組み、客観的に説得的に論証して、結論を導くことができる。	発表	35%
コミュニケーション力	調査の成果を、読み手や聞き手に分かりやすく伝えることができる。積極的に議論に参加できる。	発表 ディスカッション	5% 10%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

事前連絡のある欠席や遅刻は減点としないが、無断欠席や無断遅刻は、社会的観点から減点とする。

発表（90%）のためのレジメを提出する際は、指定する期日までにポートフォリオで提出する。期日を守らない場合は減点とする。ディスカッション（10%）では、他の学生の発表を聞く態度が適切か、他の学生の発表に対する質疑や意見が、積極的に行われているかが評価される。発表およびディスカッションについて、教員がコメントしフィードバックする。

授業の概要

1. 事例研究課題および研究手法の導出
   関心のある国や地域、もしくは、関心のあるテーマを探し、研究手法を決定する。
2. 事例研究の実践、事例研究報告書の作成、報告、討論
3. 業界研究・企業研究、情報の共有

研究課題に対する作業は、基本的に授業外における学習で準備し、授業においては、授業外において得られた学習・研究の成果（経過）報告と意見交換に重点が置かれる。

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書・参考書：特に指定しない。

指定図書：『観光の経済学』　学文社

授業外における学修及び学生に期待すること

積極的かつ自主的に研究していくことを期待する。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	ゼミ概要やスケジュールについて、オリエンテーションする。前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	研究テーマを考える。
2	前学期の省察と 本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	研究(1)研究テーマの設定	共同研究する研究の目的を明らかにし、研究テーマを設定する。	研究テーマに関する先行研究を収集する。
4	研究(2)先行研究調査	研究テーマに関する先行研究を収集し解題し報告する。	先行研究を解題しまとめる。
5	研究(3)調査内容・調査方法の決定	研究テーマに基づき、調査内容と調査方法を決定する。	調査内容や方法について案を作成する。
6	研究(4)調査	調査計画を報告する。	調査計画を検討する。
7	研究(5)調査	調査経過を報告する。	調査結果を整理する。
8	研究(6)　調査結果の集計	調査結果を集計し、まとめる。	入力作業をする。
9	研究(7)分析	集計した結果から各種効果を算出する。	調査結果をまとめる。
10	研究(8)分析結果の検討	各種効果について討論する。	分析結果をまとめる。
11	研究(9)報告書の作成	報告書の構成および作成分担を決定する。報告書作成上のグラフ、脚注、参考文献の記述方法を学ぶ。	報告書の構成を考える。
12	研究(10)報告書の作成	発表用のパワーポイント資料を作成する。	資料を作成する。
13	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会（1）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会（2）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復習：ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB　(CF402)			担当教員	竹田　文雄		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ねらい	アクティブラーニングの 類 型
専門演習ⅢA での実践を継続します。 専門演習Ⅰ、Ⅱでの学修と実践を通して得た様々な「気付き・発見」、「ホスピタリティ・マネジメントの理念」、および「関連する時事知識」を基に、学修と研究の集大成としての卒業論文を完成させることを目標とします。	②④ ⑥⑦

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	研究対象に対する多面的な分析から、自らの発想で新たな解を求めることができる。	論文執筆	50%
情報収集、分析力	研究対象について、参考文献、資料、メディア、専門家などから幅広く情報を集め、整理分析した上で、独自結論を導き出すことができる。	調査結果の内容	30%
コミュニケーション力	研究の成果を聞き手に理解させることができる。また、他社の研究に対して、適切なフィードバックを行うことができる。	研究発表	20%
協働・課題解決力			
多様性理解力			
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

論文執筆：５０％　題目の設定、多面的な視点からの分析、理論構築の方法、結論の独自性などから総合的に判断。
調査研究：３０％　題目に関する幅広い情報収集力と結論に導くための整理、分析力を評価。
研究発表：２０％　聞き手の興味を喚起し、聞き手と研究成果を共有するプレゼンテーション力を評価。
評価のフィードバックは、ポートフォリオ、および授業内外でその都度行っていく。

授　業　の　概　要

卒業論文の完成までのロードマップに従い、基本的に各自が授業外で準備してきた成果を発表し、議論することで研究内容を深堀していく。
この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。　　指定図書：授業時に、指定する。

授業外における学修及び学生に期待すること

社会の出来事に興味を持ち、その中から自らが最も興味を持つ研究題目を見出し、深く没頭して課題に取り組む姿勢を期待する。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	演習の概要理解	（予習）シラバスを読んでおく
2	個人目標の設定	専門演習ⅢA の省察の実施。それを基に本学期の目標を設定する。	（予習）個人目標を考えておく
3	論文の個別指導①	序論を執筆する。	（復習）執筆を完成させる。
4	論文の個別指導②	序論を発表する。	（復習）執筆を完成させる。
5	論文の個別指導③	本論の前半部分を執筆する。	（復習）執筆を完成させる。
6	論文の個別指導④	本論の中間部分を執筆する。	（復習）執筆を完成させる。
7	論文の個別指導⑤	本論の後半部分を執筆する。	（復習）執筆を完成させる。
8	論文の個別指導⑥	結論を執筆する。	（復習）執筆を完成させる。
9	論文草稿の完成・提出	草稿を完成し、論旨を発表する。	（復習）草稿を完成させる。
10	論文の個別指導⑦	草稿の改善点を修正する。	（復習）草稿を改善する。
11	論文の個別指導⑧	草稿の改善点を修正する。	（復習）草稿を改善する。
12	論文・要旨の完成・提出	体裁を整え、最終確認の上で提出する。	（予習）最終確認を行う。
13	卒業研究発表①	卒業研究発表を行う。	（復習）振り返りを行う。
14	卒業研究発表②	卒業研究発表を行う。	（復習）振り返りを行う。
15	大学生活の省察	これまでの大学生活を省察する。	（復習）ルーブリックの最終入力

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB(CF402)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
専門演習Ⅰ・Ⅱの対象テーマや学習を通じて考えた課題について、さらなる取り組みを進め、題目を決定し、研究論文の完成に向けた資料収集、調査・分析、執筆を行う。	②④ ⑥⑦

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	自分の題目について、その背景の十分な理解に基づく適切な論点の設定がなされた独自の視点での研究論文の執筆につなげることができる。	・論文執筆	50%
情報収集、分析力	研究対象について自分の論点に基づいた情報を得るための文献やWEBでの情報収集を行なうことができる。	・調査内容	30%
コミュニケーション力	自身の研究について、論点を整理して簡潔に発表することができる。	・研究発表	20%
協働・課題解決力	自分以外の発表について、積極的に質問や意見を述べることができる。	・グループ討議	10%
多様性理解力			
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

論文の執筆については、題目にそった論点設定、適切な文献資料と理論の構築、独自性のある内容などから総合的に評価する（50%）。調査内容については、必要に応じた現地調査など幅広い情報収集と分析結果を評価（30%）。研究発表（20%）は分かりやすく簡潔な説明に対して評価し、グループ討議（10%）は他者との情報共有や研究成果の共有への積極性を評価する。フィードバックは、講義中またはポートフォリオから都度行なう。

授業の概要

自身の興味のある分野から題目の設定を行ったのち、収集した文献や情報から分析と論点整理、仮設の設定を行う。基本的には担当教員からの個人指導と適宜自分の理論をゼミ内で共有しながら、論拠を確かなものにしていく。
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。

教科書・参考書

教科書/参考書：特に指定しない。必要なレジュメなどは授業時に配布。
指定図書：『レポート・論文の教科書』小川仁志（ちくまプリマー新書）

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習では、学生生活の研究の集大成として、社会における出来事に対する真剣な関心を持ち、独自の視点で時間をかけて研究し論文に仕上げていくことで、その達成感を今後の社会生活における礎にしてほしい。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	演習のスケジュールの確認、理解。	予習：年間計画の見直し復習：年間計画の修正
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き復習：本学期の目標設定の清書
3	論文の個別指導①	序論を執筆する。	予習：序論の検討 復習：序論の執筆
4	論文の個別指導②	序論を執筆する。	予習：序論の執筆 復習：序論の完成
5	論文の個別指導③	本論の前半部分を執筆する。	予習：本論前半の検討 復習：本論前半の執筆
6	論文の個別指導④	本論の前半部分を執筆する。	予習：本論前半の執筆 復習：本論前半の完成
7	論文の個別指導⑤	本論の後半部分を執筆する。	予習：本論後半の検討 復習：本論後半の執筆
8	論文の個別指導⑥	結論を執筆する。	予習：結論の検討 復習：草稿の完成
9	論文草稿の完成・提出	草稿を完成し、要旨を発表する。	予習：発表準備 復習：草稿の修正
10	論文の個別指導⑦	草稿の改善点を修正する。	予習：草稿の修正 復習：草稿の修正
11	論文の個別指導⑧	草稿の改善点を修正する。	予習：草稿の修正 復習：草稿の修正
12	論文・要旨の完成・提出	卒業論文の体裁を整え、全体を最終確認して提出する。	予習：論文の完成 復習：発表準備
13	卒業研究発表会（１）	卒業研究発表会（１）	予習：卒業研究発表準備復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表会（２）	卒業研究発表会（２）	予習：卒業研究発表準備復習：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う。	予習：ホスピタリティ・ルーブリック（自己）記入復習：ホスピタリティ・ルーブリック（最終）記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB　(CF402)			担当教員	山内　美穂		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、履修生各自が独自の研究テーマを設定し、卒業論文を作成することを目的とする。前期に決めたテーマと計画にそって調査を進め、独自の視点と手法で論文を執筆する。	①②⑥⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	オリジナリティのある論文を完成することができる。	論文執筆	50%
情報収集、分析力	調査データを収集し、分析し、その結果を論理的かつ視覚的に提示することができる	データ分析 図表作成	30%
コミュニケーション力	論文内容について論理的に述べることができる。 他の履修生の発表内容に対し、質問やコメントができる。	発表 ディスカッション	10% 10%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

論文の作成で50%、調査データの分析とその論理的提示で30%、発表で10%、他の履修生の発表に対するコメントなどで10%を評価する。提出された論文や発表に対しては授業中または個別にコメントしフィードバックする。

授業の概要

前期に設定したテーマにそって、調査、分析、考察を進め、実際に論文を執筆し、完成させるための授業である。個別指導、発表、討論を通して、内容を練り上げていく。

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：適宜、プリントなどを配布する。
参考書：二通信子ほか『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会(2009)
指定図書：二通信子ほか『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会(2009)

授業外における学修及び学生に期待すること

私たちが得られるさまざまな知識の多くは先人の研究の成果である。関心のある分野の未解決の課題を探り出し、そのテーマについて新たな発見をすることは、社会的にも意義あることで、論文として完成させた時の達成感は何物にも替えがたい。履修生にもぜひ、そのような体験をしてほしい。そして、大学時代には「〇〇の研究をしたのだ」と自信をもって卒業してほしい。論文完成までは苦しい道のりかもしれないが、その経験と課程は今後の人生にも大きな力になると考える。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミの進め方について説明する。 前期の成果を踏まえ、今後やるべきことを確認する。	予習：卒研の進捗状況をまとめる 復習：後期の課題設定
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	個別指導(1)	研究背景と章立ての確認と修正。 個別指導	予習：章立ての確認 復習：章立ての修正
4	個別指導(2)	春卒生：調査と論文執筆、秋卒生：卒業研究 個別指導	春卒生：調査と執筆 秋卒生：先行研究など
5	個別指導(3)	春卒生：分析と論文執筆、秋卒生：卒業研究 個別指導	春卒生：分析と執筆 秋卒生：先行研究など
6	意見交換(1)	卒業研究の進捗状況、今後の課題などについて発表し、意見交換をする。	予習：発表準備 復習：発表に対するコメントシートの作成
7	意見交換(2)	論文執筆の進捗状況、今後の課題などについて発表し、意見交換をする。	予習：発表準備 復習：発表に対するコメントシートの作成
8	個別指導(4)	春卒生：論文執筆、秋卒生：卒業研究 個別指導	春卒生：執筆 秋卒生：調査
9	個別指導(5)	春卒生：論文執筆、秋卒生：卒業研究 個別指導	春卒生：執筆 秋卒生：調査
10	個別指導(6)	春卒生：論文執筆、秋卒生：卒業研究 個別指導	春卒生：要旨作成 秋卒生：分析
11	要旨について	春卒生：卒業論文の要旨作成、秋卒生：卒業研究	春卒生：ルーブリック評価 秋卒生：分析
12	ルーブリック評価・省察入力について	春卒生：ルーブリック評価・省察入力について、面談 秋卒生：卒業研究	春卒生：発表準備 秋卒生：発表準備
13	大学生活のふりかえり	入学からこれまでの大学生活の省察(卒業ポートフォリオ)、ホスピタリティ・ルーブリック、まとめ。	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会（1）秋卒生は研究ができているところまで発表 （1 人 10 分、質疑応答 5 分）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会（1）秋卒生は研究ができているところまで発表 （1 人 10 分、質疑応答 5 分）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
This course provides an opportunity for student plan, research, implement and report on a project with students from other countries. Students will further develop language and personal skills through writing assignments and reading for research.	④⑤⑦

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	Students will be able to plan and complete a project with international students	Plan and report Implementation Written assignments	20% 20%
情報収集、分析力	Students will be able to improve English by collecting information for research	Presentation	30%
コミュニケーション力	Students will be able to discuss current projects and assignment with other students Students will be able to give a presentation on their research	In-class engagement Presentation	10% 20%
協働・課題解決力			%
多様性理解力			%
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

In-class engagement (Group discussions, supporting other students with helpful ideas): 10%
Project planning and implementation (Create a plan and reflection about a project): 20%
Other assignments (Occasional written assignments): 20%
Presentation (planning, presenting, feedback): 50%

授業の概要

Students discuss and research a project with international students. From this, they move on to preparing implementing it. The semester concludes with a research presentation and reflection. この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。
* All feedback is provided via rubrics and comments in the online gradebook (https://niu.9learn.net/ and Google Classroom)

教科書・参考書

教科書：Materials provided by the teacher
参考書：J.W. クレスウェル、「人間科学のための混合研究法」
指定図書：Extensive reading books from the library

授業外における学修及び学生に期待すること

1. This course is conducted in English.
2. Students are responsible for the cost of project-related materials and off-campus field work.
3. Student expectations: Students will attend all lessons (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher before missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	Introduction	• Introduce the course and review the syllabus • Students learn about each other What is research? Previous experience	Read syllabus in advance
2	Seminar business	• *Rubric hyoka*, 100 book policy (what & how?), Q-learn, anti-harassment, CLHSC, semester schedule, attendance system, NIU email, standard rubric for academic essays	Complete the rubric and input any books on Manaba
3	Personal goal setting	• Conference with seminar teacher about personal goals for the semester • Check *Rubric Hyoka* and 100 Book status	Students meet with teacher about rubric
4	Field Trip 10/13	• Field trip to Hasami with international students (afternoon)	Prepare for trip
5	October Project week 2	• Students present status update on project and receive feedback	Prepare status update
6	October Project week 3	• Students present status update on project and receive feedback	Prepare status update
7	November Project week 1	• Discussion about results of October project • Students present plan for November project	Prepare status update and discussion
8	November Project week 2	• Students present status update on project and receive feedback	Prepare status update
9	November Project week 3	• Students present status update on project and receive feedback	Prepare status update
10	November Project week 4	• Students present status update on project and receive feedback	Prepare plan
11	Preparation for final presentation	• Students present plan for final presentation	Prepare outline
12	Final presentation practice	• Students practice in groups • Discussion of results of November project	Prepare draft
13	Final presentation final practice	• Students present status update on project and receive feedback	Prepare slideshow
14	Final seminar Presentation	• Students present status update on project and receive feedback	Prepare presentation
15	Review and final feedback	• Discussion of results of December project • Review key points of seminar	Prepare peer feedback

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB(CF402)			担当教員	浦郷　淳		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	４年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、卒業論文の作成を行う。各自設定したテーマに関わる専門知識を習得することを通して、関連情報や資料、文献、データを自ら収集し、分析していくことで、受講者の情報収集力、批判的思考、考えを的確に表現する力、論理的な文書を書く力、といった、社会人として身につけておくことが望ましい基礎力の養成を図る。	⑥⑩⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	自らの「問い」の解決に必要な用語や事項を理解し、端的に説明することができる。	発表と議論 レポート	20　% 20　%
情報収集、分析力	自らの「問い」の解決に必要な資料や情報を自ら収集、整理・分析を通して、指定された形式で卒業論文に表現することができる。 自らの「問い」の解決を示すために必要なデータや論文などを的確に読み取ることができる。	発表と議論 レポート	10　% 20　%
コミュニケーション力	自らの主張を根拠を基に行い、他の受講者と議論することができる。	発表と議論	20　%
協働・課題解決力	テーマを自ら設定し、そのテーマを究する社会的意義について説明することができる。	発表と討議	10 %
多様性理解力			%

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

評価については、卒業論文を 70%、発表と討議を 30%の比率で評価する。卒業論文については、授業内、また授業外に随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と討議については、テーマに対して批判的・意欲的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な討議を促しているかなどの観点から評価する。なお、無断欠席（特に課題発表の担当となっている日の欠席）は大幅に減点する。

授業の概要

本授業の目的は卒業論文の作成である。個々のテーマに関する執筆を行い、受講者全員でお互いの論文を検討し、加筆、修正を行っていく。全体での議論を前提としつつ、状況に応じて個別指導を取り入れ、個々の実態に応じた指導を適宜行って良く。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、90 分とする。

教科書・参考書

教科書・参考書：特に指定しない（資料は適宜配布する）。

指定図書：小笠原 喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術（講談社現代新書）』2018

授業外における学修及び学生に期待すること

論文を書くということは簡単な事ではない。しかし、大学生活の最後の作品として各自納得する論文を仕上げて欲しい。そのためには、計画的な執筆、発表準備、出された意見を自分のものとし、改善していくことが求められる。受講者全員が協力しながら、卒業論文完成まで努めて頂きたい。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	授業展開を知る （オリエンテーション）	前期の進捗状況と執筆スケジュールを確認する。	予）卒業論文の進捗状況の確認 復）論文執筆作業の継続
2	前期のふりかえりと 本学期の目標設定	ホスピタリティルーブリックへの入力を行う。 本学期の目標を設定する。 またそれを基に教員と個別面談を行う。	予）前期のふりかえりと本学期の目標設定 復）本学期の目標の確認
3	卒業論文の執筆①	テーマに沿って論題・項立てを確定する。	予）項立ての作成 復）論題、項立の修正
4	卒業論文の執筆②	問題の所在と研究の目的を確定する。	予）問題の所在と研究の目的の執筆 復）修正内容の修正
5	進捗状況の発表①	テーマと問題の所在・目的を全体で討議する。	予）テーマ確認 復）討議事項の確認
6	卒業論文の執筆③	論文を執筆し、その過程で困った点を共有・解決していく。	予）卒業論文執筆 復）共有点の改善
7	卒業論文の執筆④	論文を執筆し、その過程で困った点を共有・解決していく。	予）卒業論文執筆 復）共有点の改善
8	進捗状況の発表②	内容の概略を発表し、全体で討議する。	予）卒業論文執筆 復）討議内容を反映
9	卒業論文の執筆⑤	卒業論文の執筆を行い、草稿を完成させる。	予）卒業論文執筆 復）草稿の完成
10	卒業論文の執筆⑥	草稿の検討を行い、様式、体裁を確認する。	予）草稿の確認 復）表現の修正
11	卒業論文の執筆⑦	卒業論文を完成させる。	予）卒業論文執筆 復）論文提出
12	要旨執筆	完成した卒業論文をもとに要旨を作成する。	予）卒業論文を読み返す 復）要旨作成
13	卒業研究発表①	卒業論文を発表する①	予）発表会準備 復）発表会を振り返る
14	卒業研究発表②	卒業論文を発表する②	予）発表会準備 復）発表会を振り返る
15	大学生活のリフレクション	ホスピタリティルーブリックを入力するとともに、大学生活４年間を振り返る。	予）ホスピタリティルーブリック入力 復）ホスピタリティルーブリック最終版入力
16			

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIIB(CF402)	担当教員	江島　弘晃

展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
専門演習 IIIA および IIIB ではこれまでの専門演習での学習を踏まえ、運動生理学や健康科学に関する卒業研究論文の作成に取り組む。自身が自ら課したテーマ・課題を実行し、卒業研究論文を通して論理を上手く表現できる能力を養うことを最終的な目標とする。IIIB では卒業研究論文を完成させ、研究内容を周知に発表することで研究の一連の過程を学習する。	⑤⑪⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・ 卒業論文の作成規則に則り、研究内容を論理的に実践することができる。	・ 課題の遂行	60%
情報収集、分析力	・ 運動生理学や健康科学に関する最新の情報を原著論文等を通して収集し、卒業論文作成時に活用することができる。	・ 情報収集	30%
コミュニケーション力	・ ディスカッションにおいて自分自身の意見を述べることができる。	・ 他者の主張を踏まえた議論の展開	10%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

卒業論文に関する研究進捗を評価基準とする（評価比率:60%）。卒業研究論文を作成する上での研究内容の論理性・構造性または課題解決に向けた情報収集・分析力などを評価する（評価比率:30%）。また、数回の発表機会などを設定し、プレゼンテーション・ディスカッションを適切に表現出来ているか否かも評価する（評価比率:10%）。授業の課題は、ポートフォリオを通して行う。

授業の概要

運動生理学・健康科学に準じた研究活動が円滑に行えるようにする。卒業研究論文作成のため、各自が設定したテーマを基に教員の指導の下、研究活動を実施する。研究に伴うデータ取得活動は演習授業の時間外に行う。研究活動の報告は担当者自身がプレゼンテーションによって行い、ディスカッションは参加者全員で行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない
参考書：出村愼一，山次俊介著 「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」（杏林書院）ISBN:978-4-7644-1162-3
指定図書：出村愼一，山次俊介著 「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」（杏林書院）ISBN:978-4-7644-1162-3

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習を通してスポーツ科学・健康科学の研究分野に触れることで、自身の競技種目に反映できる、または疾病予防に向けた運動処方に応用できることを望む。また、本演習ではコミュニケーション能力、課題の取り組み、プレゼンテーション能力からディスカッション能力といった社会人の素養を獲得することを目指す。そのため、挨拶や時間厳守などの基本的な社会行動を守るとともに、授業欠席などの際には事前に担当教員に連絡することが望ましい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	・ 演習授業の進め方についての説明 ・ 個別に学業などに関する面談を実施	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	・ 前学期の省察を行い、各個人の本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標設定の確認
3	卒業論文のテーマ設定	・ 卒業論文のテーマの再確認および修正	予習：テーマの再確認および修正 復習：議論によって修正した内容を復習
4	進捗報告（1）	・ 担当者による進捗報告	予習：レジュメ作成方法の確認 復習：発表時の議論内容の復習
4	進捗報告（2）	・ 担当者による進捗報告	予習：担当者によるレジュメ作成 復習：進捗および修正の内容を一覧として各自でまとめる
5	進捗報告（3）	・ 担当者による進捗報告	予習：レジュメ作成および進捗の数値化 復習：進捗の数値化および修正内容の確認に関しての復習
6	進捗報告（4）	・ 担当者による進捗報告	予習：進捗の修正内容に関するレジュメ作成 復習：研究進捗の修正内容の確認および復習
7	進捗報告（5）	・ 担当者による進捗報告	予習：研究進捗に関するレジュメ作成 復習：研究結果に関する考察の確認と復習
9	卒業研究作成の準備（1）	・ データの処理・グラフ作成	予習：データ処理の確認 復習：グラフ作成の方法に関しての復習
10	卒業研究作成の準備（2）	・ データの処理・グラフ作成	予習：データ処理・グラフ作成の進捗 復習：進捗内容の確認および復習
11	卒業研究作成の準備（3）	・ プレゼンテーションの資料・スライド作成	予習：パワーポイントの使用方法の確認 復習：スライドの修正内容の確認および復習
12	卒業研究作成の準備（4）	・ プレゼンテーションの資料・スライド作成	予習：発表スライドの作成 復習：スライドの枚数の確認と修正の継続
9	卒業研究発表の準備	・ プレゼンテーションの資料･スライド発表および修正	予習：発表の時間配分の準備 復習：発表を通した議論内容をまとめ、スライドに反映させる
13	卒業研究発表（1）	・ 卒業研究発表会（1）	予習：発表会の準備 復習：発表時の振り返り
14	卒業研究発表（2）	・ 卒業研究発表会（2）	予習：発表会の準備 復習：発表時の振り返り
15	総括	・ 大学生活の省察と卒業後の抱負	各自設定した課題などの省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB　(CF 402)			担当教員	川上　直彦		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
人類の文明発祥の地で興った「古代オリエントと東地中海世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、エーゲ文明、クレタ文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。	①⑤⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。	レポート・発表	35%
情報収集、分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。	レポート・発表	30%
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニュケーション能力を上達させることができる。	発表	20%
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。	授業参加度	15%
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

各自、3 本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の85%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。

授業の概要

本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエントと東地中海世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、エーゲ文明、そしてクレタ文明等にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義を実践し、また、DVD などの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教科書・参考書

教科書：適宜プリントを配布する。
参考書：適宜プリントを配布する。
指定図書：世界の歴史１：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）

授業外における学修及び学生に期待すること

古代史・考古学全般に関心を持ち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	はじめに 東地中海文明（1）	演習全体の導入と説明 エーゲ海文明１	復習：今回の復習 予習：エーゲ海文明について調べる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	東地中海文明（2）	エーゲ海文明２	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	東地中海文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：イシン・ラルサ王朝、バビロン第一王朝と古アッシリアについて調べる
5	最古の帝国の出現（1） 古代オリエント文明	交易と交戦	復習：今回の復習 予習：エラム王国カッシート王朝、中アッシリア、ミタンニについて調べ、理解する
6	最古の帝国の出現（2） 古代オリエント文明	都市国家の連合と対立	復習：今回の復習 予習：ヒッタイト、ラムセス２世、新王国時代について調べる
7	最古の帝国の出現（3） 古代オリエント文明	古代オリエント世界の国際化と多極化	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
8	最古の帝国の出現（4） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：今回の復習 予習：新アッシリア帝国と旧約聖書について調べる
9	最古の帝国の出現（5） 古代オリエント文明	アッシリアの台頭とそのライバル	復習：今回の復習 予習：ティグラト・ピレセル３世、サルゴン２世、エサルハドン、アシュールバニバルについて調べる
10	最古の帝国の出現（6） 古代オリエント文明	新アッシリア帝国の再興	復習：今回の復習 予習：新バビロニア帝国、ペルシャ帝国、アレクサンドロス大王について調べる
11	最古の帝国の出現（7） 古代オリエント文明	最後の帝国について	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
12	最古の帝国の出現（8） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
13	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会（1）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会（2）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復習：ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	４年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブ・ラーニングの 類 型
これまでの専門演習の流れを汲み、本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連して自己が関心を寄せる問題に対する論証力、現場における実践力の具体化を目指す。具体的にいえば、論証力は卒業研究論文として、実践力は設定された模擬授業/指導場面での具体的対応とそれを明文化して指導案として形にすることを目指す。	⑤ ⑥ ⑦

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力	体育やスポーツの専門的な指導計画の立案や指導実践ができる。また、体育・スポーツの専門的な指導計画の立案や実践経験をもとに個別テーマ研究を論理的にまとめることができる。	・専門的な指導実践 ・研究の論理的展開	２０％ ３０％
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問題を設定できる。	・問題設定の妥当性	３０％
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通了解となる答えをみつけるための議論ができる。	・研究発表や実践後の議論内容	２０％
協働・課題解決力			
多様性理解力			
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料内容を整理した上で、自身の設定したテーマの研究が取り組まれているか、その内容は論理的に展開されているかを評価する。
・運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）を作成し、指導が展開されているかを評価する。
・フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。

授　業　の　概　要

・教育、歴史、社会、文化等を扱う人文科学の研究方法に基づいて、問いを共有するためのレジュメや発表資料、あるいは現場で必要となる指導案を作成する中で、個別に設定したテーマの研究に取り組む。適宜運動実践も交えつつ、テーマ研究や実践について対話形式で議論する。
・本演習に通底するのは、体育やスポーツとは何か、指導とは何か、運動を経験することの意味は何か、といった問いを設定しその答えを導こうとする姿勢である。
・この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房
『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房
参考書：各県教員採用試験過去問題集（保健体育）＊指定しない
教員採用試験参考書（保健体育）＊指定しない
教員採用試験ステップアップ問題集（保健体育）七賢出版　＊該当年度の問題集
指定図書：雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、 雑誌『現代スポーツ評論』創文企画
『はじめての哲学的思考』 苫野一徳 2017 筑摩書房

授業外における学修及び学生に期待すること			
「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークを、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングをして情報の蓄積を継続的にすること。それは卒業研究の論理的展開力、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。			
回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション 及び個別面談	・本演習の概要説明 ・個別に学業等に関する面談を実施	予習：前学期の省察 復習：個別面談内容を基に本学期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	研究テーマ再構成	「問い」に対する「答え」は論理的か	予習:『新版 論文の教室』を通読 復習：図書の再通読
4	レジュメの作成ⅢB	主張の抽出と思考の言語化ⅢB （テーマ：卒業研究の論旨の暫定的確定）	予習：論文を検索し通読 復習：キーワード再設定のち再検索
5	指導案の作成ⅢB	授業/指導計画と種目の教材化ⅢB （進路に応じた体育/スポーツ指導の計画立案）	予習：学習指導要領を通読 復習：種目別に段階的な実技指導法を調べる
6	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 （研究発表時の質疑応答の作法について）	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
7	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 （PPT を用いる際の発表について）	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
8	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （各種設定した種目）	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
9	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （研究内容の論理性について）	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
10	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （研究内容の用語の統一性について）	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
11	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （各種設定した種目）	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
12	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （研究内容の目的と結論の整合性について）	予習：発表者は PPT の準備 復習：発表時の指摘を反映
13	卒業研究発表（１）	卒業研究発表会（１）	予習:卒業研究発表準備 復習:発表会の振り返り
14	卒業研究発表（２）	卒業研究発表会（２）	予習:卒業研究発表準備 復習:発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察(卒業ポートフォリオ)、ホスピタリティ・ルーブリック、まとめ	予習:ホスピタリティ･ルーブリック(自己)記入 復習:ホスピタリティ･ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIIB(CF402)			担当教員	東出　朋		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
この演習では，専門演習 I・II で身につけた知識や方法を使って卒業論文執筆を行う．専門演習 IIIA で設定したテーマに基づき，自分の力で調査・分析し，論理的に論を展開して論文を作成する．	⑤⑩⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	テーマについて，調査・分析し，論理的に論を展開することができる．	論文	50%
情報収集，分析力	テーマについて必要な文献を探し，批判的に読み，総合的に理解することができる．	論文	35%
コミュニケーション力	他者の発表を的確に理解し，適切な質問をし，建設的なコメントを述べることができる．	ディスカッション	15%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

卒業論文で 85%，発表後の討論への参加で 15%を評価する．論文は，論理展開，オリジナリティ，調査資料の扱い方などで評価する．

授業の概要

専門演習 IIIA で設定したテーマに基づき，実際に論文を書き進め，完成させるための授業である．執筆，発表，討論，個別指導を繰り返すことで，よりよい論文に仕上げる．
この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は，45 分とする．

教科書・参考書

教科書：特になし
参考書：特になし
指定図書：石黒圭（2012)『論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業外における学修及び学生に期待すること

論文を執筆する作業は，自分の頭で考え，調べ，表現する，自分との対話である．
その過程で，他者と対話することで，自分の考えが変わったり新しい考えを思いついたりする．
まずは，自分と徹底的に話し，考える作業に取り組んでほしい．
この活動は，実生活でも重要な思考スキルである．

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	進め方の確認，夏休みの進捗状況の報告と今後の計画	予習）論文の進捗状況の報告準備
2	個別指導１	研究背景及び章立ての確認	予習）計画シートの記入 復習）計画シートの修正
3	個別指導２	本論の執筆．修正点の指摘.	予習）章立ての確認 復習）章立ての修正
4	個別指導３	本論の執筆．修正点の指摘.	予習）本論を書き始める 復習）本論の修正
5	個別指導４	本論の執筆．修正点の指摘.	予習）本論の執筆 復習）本論の修正
6	意見交換１	現状及び今後の課題の発表・共有. ディスカッション	予習）発表準備 復習）リフレクションカード記入
7	意見交換２	現状及び今後の課題の発表・共有. ディスカッション	予習）発表準備 復習）リフレクションカード記入
8	個別指導５	本論の執筆．修正点の指摘.	予習）本論の執筆 復習）本論の修正
9	個別指導６	本論の執筆．修正点の指摘.	予習）本論の執筆 復習）本論の修正
10	個別指導７	本論の執筆．修正点の指摘.	予習）本論の執筆 復習）本論の修正
11	個別指導８	要旨作成．全体の修正.	予習）要旨の作成 復習）要旨の修正
12	卒業研究発表１	研究発表会１ 各自プレゼンテーションを行ったあと，質疑応答.	予習）発表準備 復習）リフレクションカード記入
13	卒業研究発表２	研究発表会２ 各自プレゼンテーションを行ったあと，質疑応答.	予習）発表準備 復習）リフレクションカード記入
14	卒業研究発表３	研究発表会３ 各自プレゼンテーションを行ったあと，質疑応答.	予習）発表準備 復習）リフレクションカード記入
15	大学生活の省察	入学から今までの大学生活の省察を行う.	予習）ホスピタリティ・ルーブリック記入 復習）ホスピタリティ・ルーブリック清書

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIIA(CF402)	担当教員	末永貴久

展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
専門演習 IIIA および IIIB では、前年度までの専門演習で学んだ内容を踏まえ、スポーツマネジメント・地域スポーツ・運動生理学・測定評価・コンデショニングなどの理論や技術に基づく卒業研究論文の作成に取り組む。学生自身が疑問を持ち、考えたテーマや課題を実行し、卒業研究論文の作成を通して、論理を実践に繋げる観点を養い、また、プレゼンテーションの技術を修得することを最終的な目標とする。IIIB では卒業論文を完成させ、研究の課題作成から内容の発表に至るまでの一連の過程を学習する。	⑤⑪⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・ 研究しようとする内容を論理的に整理し、卒業論文の作成規則に則り、計画することができる。	・ 課題の取り組み	50%
情報収集、分析力	・ スポーツマネジメント・地域スポーツ・運動生理学・測定評価・コンデショニングなどに関する情報を、書籍や論文等を通して収集し、卒業論文作成時に活用することができる。	・ 情報収集の内容	30%
コミュニケーション力	・ プレゼンテーションにおいて自分自身の意見を述べ、質問や意見を踏まえた上で、ディスカッションをすることができる。	・ 質問や意見を踏まえての議論	20%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

課題やテーマを明確にした上で、卒業論文作成への進捗状況を評価基準とする（評価比率:50%)。作成する論文における研究内容が適切な論理に基づいているか、課題解決に向けた情報が適切に収集・分析されているかなどを評価する（評価比率:30%)。また、複数回の模擬発表の機会を設定し、プレゼンテーションやディスカッションが適切に行われているかを評価する（評価比率:20%)。課題のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う。

授業の概要

卒業論文作成に向けた研究活動がスムーズに行えるよう、実践型の授業にする。学生各自が設定した課題やテーマを基に、教員とコミュニケーションを取りながら、指導・研究活動を実施する。研究に伴う資料やデータの取得活動は主に授業の時間外に行う。プレゼンテーションにより、担当者自身が研究活動の報告を行い、参加者全員でディスカッションを行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない
参考書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介（杏林書院）
指定図書：「健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門」 佐藤 進 他（杏林書院）

授業外における学修及び学生に期待すること

スポーツマネジメント・地域スポーツ・運動生理学・測定評価・コンデショニングなどスポーツに関わる幅広い分野に触れることで、自身の専門種目に有益な知識や技術を習得し、さらに本演習が、将来にわたってスポーツに関わる礎となることを望む。また、本演習で行うカンファレンスや実習によって、コミュニケーション能力や課題の取り組みなど、社会人の基礎となる能力の向上を目指してほしい。そのために、挨拶や授業態度、時間厳守などの基本的な社会行動を守り、授業を欠席する際には事前に連絡するなどの習慣をつけてほしい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	・ 授業の進め方について説明する ・ 個別に面談を実施する	予習：シラバスを熟読する
2	本学期の目標設定	・ 前期の省察 ・ 後期の目標設定	予習：前期の省察について考えてくる 復習：後期の目標確認
3	卒業論文のテーマ・題目の設定	・ 卒業論文のテーマ・題目の再確認および修正	予習：テーマや題目の再確認 復習：議論によって修正した内容の確認
4	進捗状況報告（1）	・ 担当者による進捗状況の報告	予習：レジュメ作成方法の検討 復習：発表内容の確認
4	進捗状況報告（2）	・ 担当者による進捗状況の報告	予習：レジュメ作成 復習：進捗状況および修正内容をまとめる
5	進捗状況報告（3）	・ 担当者による進捗状況の報告	予習：レジュメ作成 復習：指摘事項の検討
6	進捗状況報告（4）	・ 担当者による進捗状況の報告	予習：レジュメ作成 復習：進捗状況の確認や指摘事項の検討
7	進捗状況報告（5）	・ 担当者による進捗状況の報告	予習：レジュメ作成 復習：「結果」「考察」の確認
9	論文作成（1）	・ データの処理やグラフの作成	予習：データ処理の確認 復習：グラフ作成方法の復習
10	論文作成（2）	・ 結果や考察の記述確認	予習：結果や考察を明確に記入する 復習：進捗内容の確認および復習
11	論文作成（3）	・ プレゼンテーションの資料やスライドの作成	予習：パワーポイントの使用方法について確認 復習：スライドの修正内容の確認
12	論文作成（4）	・ プレゼンテーションの資料やスライドの作成	予習：発表スライドの作成 復習：スライドの枚数や内容の確認
9	卒業研究発表の準備	・ プレゼンテーションの資料作成やスライド発表練習および修正	予習：発表の時間配分に対する準備 復習：発表の練習を通した議論内容をまとめ、スライドを修正
13	卒業研究発表（1）	・ 卒業研究発表会（1）	予習：発表会の準備 復習：発表時の振り返り
14	卒業研究発表（2）	・ 卒業研究発表会（2）	予習：発表会の準備 復習：発表時の振り返り
15	総括	・ 大学生活の省察と卒業後の抱負	これまでと今後の課題などの省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB（CF402）			担当教員	川上　知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブラーニングの 類 型
自身が設定したテーマの卒業研究の作成を通して、必要な情報を収集する力、自分の考えを口頭で表現する力、書いて表現する力を身に付け，社会人になる上でのスキルの習得も目指していく。また、自身のテーマから人の心の理解を深め，物事を多面的にみる意識を養っていく。	①④⑤ ⑥⑩⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・テーマに関わる基礎的な知識を習得し、自身の研究について、その知識を踏まえ、他者に説明することができる。	発表や討議 卒業研究	10% 30%
情報収集、分析力	・テーマに関わる先行研究を論文や文献等から収集することができる。 ・先行研究を踏まえ、自身のテーマにおける課題を明確にしたり、整理したりできる。	卒業研究	30%
コミュニケーション力	・他者の研究にも関心をもち、質問したり、感想を述べたりすることができる。 ・自分の研究についての質疑応答ができる。	発表や討議	10%
協働・課題解決力	・自身のテーマに関する先行研究の総括から、課題を整理することで、研究の目的を明確にすることができる。	発表や討議 卒業研究	5% 5%
多様性理解力	・卒業研究に取り組むことを通して、人の心の多様性について理解を深めることができる。	卒業研究	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

評価については、作成途中の卒業研究を75%、発表や討議で25%の比率で評価する。卒業研究については、授業内、また授業外に随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と討議については、テーマに対して意欲的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容が、建設的な討議を促しているかなどの観点から評価する。

授　業　の　概　要

授業は卒業研究の作成を目標として概ね次の内容、手順によって進める。1．卒業研究のテーマを設定し、執筆スケジュールを確認する。2．テーマに関する先行研究を読みながら研究方法を検討する。3．卒業研究で探求する問いを確定し、必要な情報・資料・文献の収集を行なう。4．論文の構成を考え、執筆にとりかかる。なお、この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。
参考書：授業時に紹介するので、詳細を知りたい場合や知識を深めたい場合は参照のこと。
指定図書：日本心理学会、執筆・投稿の手引き（日本心理学会ホームページ）

授業外における学修及び学生に期待すること

1．他者の発表内容（テーマ）への理解を深めるために事前に資料に目を通したり、関連資料を収集したりすること
2．発表の有無に関係なく、毎時間自分の意見を必ず発表することで、自分の考えを整理するよう努めること。
3．自分の考えの根拠となる客観的資料（論文、文献など）の収集を普段から意識すること
4．自分にとっての切実な心理的、教育的課題についての問題意識を整理すること。
5．グループワークの際は、互いに意見を出しやすい雰囲気づくりを意識すること。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	論文の進捗状況と執筆スケジュールを確認する。	予）卒業研究の進捗状況の確認 復）論文執筆作業の継続
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予）前学期の省察と本学期の目標設定 復）本学期の目標の確認
3	論文の執筆①	論文の題目と章立てを確定する。	予）論文題目の確定 目次の作成 復）指摘事項の確認
4	論文の執筆②	担当者が論文の一部を発表し受講者全員で検討する。	予）発表準備 復）修正作業
5	論文の執筆③	担当者が論文の一部を発表し受講者全員で検討する。	予）発表準備 復）修正作業
6	論文の執筆④	卒業研究の様式、体裁などを確認し、修正を行なう。	予）様式、体裁等の確認 復）様式、体裁等の修正
7	論文の執筆⑤	担当者が論文の一部を発表し受講者全員で検討する。	予）発表準備 復）修正作業
8	論文の執筆⑥	卒業研究の執筆を行う。執筆作業に関して不明な点があれば、教員に相談する。	予）論文の執筆 復）論文の執筆
9	論文の執筆⑦	卒業研究の草稿を完成させる。	予）草稿の完成 復）草稿の修正
10	論文の執筆⑧	卒業研究の様式、体裁などを確認し、修正を行なう。	予）表現・形式の確認 復）表現・形式の修正
11	論文の執筆⑨	卒業研究の最終確認を行なう。	予）論文の最終確認 復）論文の提出
12	要旨の執筆	卒業研究の内容を振り返り、要旨を作成する。	予）要旨作成 復）要旨作成作業の継続
13	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会（1）	予）卒業研究発表準備 復）発表会の振り返り
14	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会（2）	予）卒業研究発表準備 復）発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予）ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復）ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	井畑敦子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
本演習は卒論作成とその完成度を高めていく。これまで習得したアカデミックスキルと観光人類学の洞察をベースに、大学での学びの集大成である卒論を完成させる。期限を守り最善の状態での提出を目指し、残った時間はそれを基に互いの学びを共有してゼミ仲間同士の学術的な研鑽を積み、卒後を目した実践的な知識の習得に努める。	④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	フィールドデータに基づいた帰納的な理論構築が展開でき、客観的に論点を整理し、説得力を持って新たな知見を伝えることができる。	・卒論 ・文献収集	40%
情報収集、分析力	観光人類学的見地からデータ収集・処理・分析をし、課題設定に基づいた方策を提示できる。	・データ収集 ・卒論	30%
コミュニケーション力	論文作成が最適なものとなるようゼミ内外での連絡を密にとり、クラスメートやインフォーマントと協力しながら、質の高い論文を構成し表現できる。	・卒論 ・意見の陳述	20%
協働・課題解決力	論文とその過程の発表を通して課題を共有し、建設的な意見交換ができる。困難にぶつかっても仲間と協力し合い助け合い論文作成を遂行できる。	・卒論 ・グループワーク	10%
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

論文執筆：卒業論文の題目の決定と執筆 50%－多面的な視点からの分析、理論構築の方法、結論の独自性などから総合的に評価する。題目に関する幅広い情報収集力と結論に導くための整理・分析力が重視される。文献ノートがまとめられ、各自の研究課題が見出されているかを評価する。
調査結果：研究発表 30%－聞き手の興味を喚起し、聞き手と研究成果を共有するプレゼンテーション力を評価する。プレゼンやディスカッション時、他の学生の発表を聞く態度が適切か、他の学生の発表に対する質疑や意見が積極的に行われているか注視する。ゼミ構成や質に直接的にかかわり、ゼミ仲間の卒論向上にも帰するので、重きを置く。
授業参加と課題提出 20%：中間発表会での質疑応答、宿題や発表スライド、原稿の提出、リアペなどのフィードバックによる授業貢献など積極的で自発的な取り組みを評価する。卒論の期限内提出を順守することにもつながるので、未提出や遅延は厳格に処する。フィー ドバックは、ポートフォリオを通して行う。

授業の概要

卒業論文の完成、提出を目指すことに焦点を当てる。ロードマップに従い最大限の準備をし、最適値の成果を発表、議論しながら内容を深めていく。研究課題に対する準備作業は、基本的に授業外における学習で行い、授業においては、授業外において得られた学習・研究の成果 （経過）報告と意見交換に重点が置かれる。テーマに関する学術論文や文献を精読し、論文の章立てを考える。現地調査や聞き取りなど休みを利用して集めてきたデータを分析し整理する。各自が選ぶ研究テーマに関連するこれまでの先行研究を探し、文献ノートを作成し発表し議論する。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。卒論提出は 11 回目としているが、8 回目で執筆は終えるようにする。

教科書・参考書

教科書：『資本主義の次に来る世界』ジェイソン　ヒッケル　東洋経済新聞社　2023 年

参考書：『脱成長』　セルジュ　ラトゥーシュ　白水社　2020 年

指定図書：『アフターコロナの観光学』遠藤秀樹　新曜社　2021 年

授業外における学修及び学生に期待すること			
この 3 年後期に至るまでに、卒論の大まかな形はできていることが望ましい。期限前に余裕を持って提出できるよう、この期間は予備だととらえる。見分を広げ、洞察をさらに深めて肉付けしていけるように、アンテナを張り、刺激を受け、発想豊かになれるよう心掛ける。また、ゼミ仲間の卒論もより豊かなものとなるよう、互いに助言しあい、切磋琢磨してほしい。			
回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	全体の導入	目的、目標を確認し、学習スケジュールを設定する。	予め指示された課題レポートを作成し持参する
2	個人面談・目標設定	これまでの進み具合を省察し、今後のために目標設定する。	現在の自分の興味、目標を整理、再確認しておく
3	先行研究を深める	前期と夏休みの成果を踏まえ、先行研究や参考文献の質と量を高める。	論文執筆の過程で生まれてきた疑問や知るべきことを整理し、対応する文献リストを作成しておく
4	方法論を深める	質的や量的なアプローチを必要時に展開していく	既定の方法論を再考し、補強すべきところをリストアップしておく
5	序論の再考、改善	序論とアウトラインについて、新たな疑問や足りない情報を確認し、さらなる参考文献やデータ収集の補強をしていく。	関連する知見や文献を確認しておく
6	本論の再考と改善	本論のデータを精査し、不足分を補強する。	関連する知見や文献を確認しておく
7	結論の再考と改善	結論を吟味し、関連する先行研究や文献を網羅しアップデートしていく。	関連する知見や文献を確認しておく
8	原稿の推敲と指導	導入部分と全体の見直しと確認する。	要旨を作成する
9	原稿の推敲と指導	本論の見直しと確認する。	データを精査する
10	原稿の推敲と指導	結論の見直しと確認する。	関連領域の最新動向をチェックする
11	卒論提出	提出し、要旨を清書する。	要旨を再び作成する
12	卒論発表準備	要旨に基づき、パワポを作成する。	ビジュアルエイドを補強する
13	卒業論文発表会	卒論をまとめて発表する。ゼミ仲間の発表にフィードバックする。	準備を入念に行い、終了後は振り返る
14	卒業論文発表会	卒論をまとめて発表する。ゼミ仲間の発表にフィードバックする。	討議を通じ深めた理解を再確認する
15	コース全体の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う。	ホスピタルルーブリックに記入する

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	長津恒輝		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅢA およびⅢB では、スポーツ健康科学分野に関する卒業研究に取り組む。その際、学術的なルールに則った実験や調査方法の習得や科学的な思考力を獲得する。ⅢA では、実験や調査によって得たデータを分析し、考察を深め、卒業論文を完成させる。	②③④⑤

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・卒業論文執筆にあたり、分析および考察を理論的に展開できる	・研究課題の遂行	50%
情報収集、分析力	・先行研究と比較し、自身の研究の新規性、面白さを説明できる	・情報収集	30%
コミュニケーション力			%
協働・課題解決力	・各自が取組む上で、ゼミ生メンバーと協力し、互いに助言しあうことができる	・受講態度	20%
多様性理解力			%
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

卒業研究の進捗状況および取組む姿勢を評価する（50%）。取組む研究課題の分析方法および考察は先行研究を基に鑑みられているかを評価する（30%）。研究は独立して行うのではなくチームで協力して進められるように互いの測定に積極的に参加しているかを評価する（20%）。フィードバックはポートフォリオを用いて行う。

授業の概要

これまでの専門演習で培った経験を活かして卒業研究に取り組む。各々がそれぞれの研究課題に向き合い、実験あるいは調査を行う。進捗状況、データ、考察の流れ確認は全員で共有し、都度ディスカッションを展開する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定なし

参考書：「体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方」福永哲夫，山本正嘉，市村出版

指定図書：「体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方」福永哲夫，山本正嘉，市村出版

授業外における学修及び学生に期待すること

卒業研究に取り組むことで、スポーツ健康科学分野における課題を把握し、それに対し興味関心を持って明らかにすることを期待する。データの分析や論文執筆は本講義外で実施するため、各自が立てた研究計画に沿って活動することが求められる。また、卒業論文提出の期日は決められているため、柔軟に対応する必要がある。時間外に担当教員に面談を依頼する場合は事前にアポイントを取ることを望む。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	・夏季休暇中の活動報告 ・前学期の省察と本学期の目標設定 ・本演習の進め方についての説明	予習:活動方向用のスライド作成 復習:ゼミ内容の全般的な確認
2	卒業研究の計画と進捗状況の確認	・各人が卒業研究の計画および進捗状況を発表し、全体で検討する	予習：進捗状況の発表準備 復習：計画を修正する
3	卒業研究の進捗報告①	・該当者による卒業研究の進捗状況の確認および共有	予習：データの共有準備 復習：データの見直しと分析
4	卒業研究の進捗報告②	・該当者による卒業研究の進捗状況の確認および共有	予習：データの共有準備 復習：データの見直しと分析
5	卒業研究の進捗報告③	・該当者による卒業研究の進捗状況の確認および共有	予習：データの共有準備 復習：データの見直しと分析
6	卒業論文の書き方①	・卒業論文の執筆方法 ・図表の作成方法	予習：過去の卒論を熟読する 復習：卒論執筆を開始する
7	卒業研究の進捗報告④	・該当者による卒業研究の進捗状況の確認および共有 ・卒業論文の目次の確認	予習：目次を作成する 復習：目次に修正を加え、完成する
8	卒業研究の進捗報告④	・該当者による卒業研究の進捗状況の確認および共有	予習：データの共有準備 復習：データの見直しと分析
9	卒業論文の書き方②	・各人による卒業論文執筆状況の確認	予習:卒業論文を共有できるように大枠の体裁を整える 復習：修正を加える
10	卒業研究の進捗報告⑤	・該当者による卒業研究の進捗状況の確認および共有	予習：文献交渉 復習：考察を深める
11	卒業研究の進捗報告⑥	・該当者による卒業研究の進捗状況の確認および共有	予習：文献交渉 復習：考察を深める
12	卒業研究発表会に向けて①	・卒業研究発表に向けたスライドのたたき台を作成し、全体で検討する	予習:発表スライド(たたき台)の作成 復習：発表スライドの修正
13	卒業研究発表会に向けて②	・発表練習 ・発表スライドに関する検討	予習:発表練習および発表スライドの修正 復習：発表練習
14	卒業研究発表会に向けて②	・発表練習 ・発表スライドの完成	予習:発表練習および発表スライドの修正 復習：発表練習
15	総括	・卒業論文完成 ・研究室での活動の振り返り	3 年間を振り返り、全体で共有する準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習 ⅢB (CF402)			担当教員	張　美慶		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
論文作成は大学生活での努力を通じて得られる結果である。本授業では今まで学んだ知識を踏まえ論文作成ために論文作成の形式、体制などを学び研究方法と結果を明確にする。	⑤⑦⑩

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	論文作成のテーマ選定、論文構成のプロセスを認識し、論文完成まで結びつけることができる。	卒業研究の提出	50　%
情報収集、分析力	論文テーマに沿った文献を探索して分析することができる。	卒業研究の提出	30　%
コミュニケーション力	研究した内容を発表することで、質疑応答に対応することができ、発表態度を身につけることができる。	研究成果発表	20　%
協働・課題解決力			%
多様性理解力			%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

卒業研究の中間提出（80%）および研究成果発表（20%）では、研究の背景、テーマ選定、文献調査方法、分析方法の観点で評価する。フィードバックは、授業時に適宜行う。

授業の概要

本授業では論文構成とその執筆プロセスなど論文作成に必要な全般的な知識を学ぶことができる。
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：小笠原喜康（2018)『最新版 大学生のためのレポート・論文術 』講談社現代新書
参考書：必要に応じて資料等を紹介する。
指定図書：教科書と同じ

授業外における学修及び学生に期待すること

論文は特定主題に関して探求した研究過程を文章で作成したものである。研究テーマの選定から論文完成までの一連の過程を通じて、このような経験が社会で報告書作成等に役立ててほしい。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	ガイダンス	授業の流れを紹介する。 論文執筆のためにテーマを考える。 研究の目的と必要性について考える。	予:シラバスを把握する。 復：論文作成方法についてインターネット資料などを調べる。
2	省察、個人目標設定	前学期の省察を行う。なお、個人目標設定のため個別の面談を実施する。	面談の準備。
3	論文作成の基本ルール	論文書き方の基本ルールについて学ぶ。	予、復：論文書き方の基本知識について整理、確認をする。
4	卒業論文作成指導	自分で決めたテーマを絞る。	予、復：研究テーマの再確認をする。
5	卒業論文作成指導	テーマ選定検討後決定、論文計画スケジュール表を作成する。	予:論文計画について考える。 復:フィードバックした論文テーマについて論文計画を整理してみる。
6	卒業論文作成指導	自分の研究テーマに沿った文献を調査。	予、復：論文のテーマに沿った文献を調べてみる。
7	卒業論文作成指導	自分の研究テーマに沿った文献を読むこと。	予:調査した文献をよむ。 復:読んだ文献を整理する。
8	卒業論文作成指導	自分の研究テーマに沿った文献を読むこと。	予:調査した文献をよむ。 復: 読んだ文献を整理する。
9	卒業論文作成指導	論文目次を構成する。	予、復：論文の目次構成について確認して整理する。
10	卒業論文作成指導	作成した論文の目次構成を検討した上でフィードバックを行う。	予、復：論文の目次構成について確認して再整理する。
11	卒業論文作成指導	選んだテーマで卒業論文を作成する。	予、復：論文執筆。
12	卒業論文作成指導	選んだテーマで卒業論文を作成する。	予、復：論文執筆。
13	卒業論文発表会①	卒業論文の発表を行う。	予:発表論文の準備。 復:論文修正。
14	卒業論文発表会②	卒業論文の発表を行う。	予:発表論文の準備。 復:論文修正。
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察行う。	予:ホスピタリティ、ルーブリック(自己)記入。 復：ホスピタリティ、ルーブリック確認及び修正。